

北部コミセン通信

コミセン祭、楽しみました

2日(土)、第28回滝沢村北部コミセン祭が開催されました。秋晴れに恵まれ、700人を超える来場者が朝から北部コミセンに詰めかけ、所狭しと並んだ展示コーナーや、踊りから手品まで多彩な演目が披露されたステージ、そして飲食コーナーを楽しみました。

保育園・小中学校から出展されたカラフルで夢のある絵や工作、一般の部の陶磁器や書・写真・手芸など、皆さん立ち止まって見入っていました。

ステージは今回ひとときわバラエティーに富んだ演目でした。生バンドの演奏で幕を開け、



郷土芸能紹介コーナー
「滝沢さんさ踊り保存会」

歌謡・舞踊・合唱…、保育園児たちの可愛らしいお遊戯で盛り上がりました。フラダンスや語り、手品も会場を楽しませました。そして今回特別にお願いして登壇していただいたのが一本

発表する角掛那菜さん



会場は感動に包まれました。

もう一人、会場を盛り上げたのが今年から司会をお願いした一本木の角掛遥さんです。澤田所長とコンビでしっかりとステージをリードしてくれました。

飲食コーナーも大賑わいで蕎麦・おにぎりをはじめ完売が続出です。玄関前テントの軽食コーナーは天気も良く人だかりが絶えませんでした。野菜や漬物の産直、みのりホームのケーキセットや綿菓子も人気でした。

28年続く村内でも屈指の手作り地域文化祭



「滝沢村北部コミセン祭」は、会場大盛り上げの盛大な餅まきで幕を閉じました。
ご来場の皆さんはじめ、出店の各団体の皆さん、出展・出演の皆さんありがとうございました。

◆今月の滝沢村の文化財展

(北部コミセンロビーに大型写真パネルを展示中)

村指定有形文化財(平成25年7月30日指定)

足形付土版

(あしがたつきどばん)

現在のあすみの団地から出土したもので、幼児の左足の形がついた粘土の焼き物。岩手県内の出土例は滝沢村が唯一です。

時期は縄文時代後期、4千年前のもので子供の健やかな成長を願った護符などと想定されています。

人体文付深鉢

(じんたいもんつきふかばち)

けや木の平団地遺跡から出土したもので、人物の文様である人体文が付けられた縄文土器の深鉢。人体や人面を表現した縄文土器は全国で知られますが、この土器のように人体の写真的なモチーフが明瞭に残っているものは極めて少なく、縄文時代の狩猟儀礼や祭祀を知る上で第一級の資料です。



北コミ日記

○月△日 雪

昨年、豪雪でずり落ちた屋根の一部を修理した際に、屋根に上った業者さんから「塗装がだいぶ剥げて地金が見えている。このままにしておくと腐食して雨漏りし、全面葺き替えという大変なことになるよ」と脅かされた。

赤い大きな屋根は北部コミセンのシンボルでもあるが、見上げてみると確かに赤のペンキが剥けているが目立った。

ペンキの塗り替え工事を村に相談していたのだが、今年度実現の運びとなった。入札では一本木の業者さんが「地元の施設だから、ぜひウチで！」と頑張って落札してくれたようだ。



大集会室 北側に作業小屋と塗料を保管する倉庫を設置し、屋根に上る仮階段を組みいよいよ作業が始まった。
数日前、大

集会室の天井から足音がする。屋根の塗装をしているようだ。

下から見上げて

屋根の上は見えないので、隣の中学校の敷地まで行ってみると6人の職人さんが作業中。それにしても大集会室の屋根は高い。

岩手山を望む晴れ渡った青空に、塗り立ての赤いペンキが映えてまぶしい。嬉しくなってきた。ヤッターを切った。

雪や低温に悩まされながらも、現在作業が進行中です。もうすぐ、北部コミセンの大屋根が鮮やかによみがえります。
(塩田)



大空と大地と海と

森林の感謝祭から贈呈を受けたチェーンソーアートを、大集会室北側園地に設置しました。鷲と熊と鮭が彫られ、それぞれ空と大地と海を表現しています。

24節気 72 候 立冬 山茶始めて開く つばきはじめてひらく
山茶花の花が咲きはじめるころ。候には「つばき」とありますが、ツバキ科の山茶花をいいます。 ◇日本の七十二候を楽しむ(東邦出版)より

湯コ入って茶飲み話しましょ!

健康相談
ご利用ください

北の湯

毎週火・金曜日 午後1時～5時
無料 60歳以上の村民の方対象

北の湯開設日

★健康相談日

11月19日(火)	★11月22日(金)
11月26日(火)	★11月29日(金)
12月3日(火)	★12月6日(金)
12月10日(火)	★12月13日(金)
12月17日(火)	★12月20日(金)